

1 平成31年度 指導の目標と重点

(1) 指導の目標

学校には、子どもの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」を育むことが求められています。

本市では、平成23年度からの「横須賀市教育振興基本計画」において、【人間性豊かな子ども】を横須賀の子ども像として掲げ、学校・家庭・地域で連携して子どもを育むことを目指しています。「指導の目標」は、「横須賀市教育振興基本計画第3期実施計画（平成30年度から4カ年計画）学校教育編」の5つの目標を基に、児童生徒を指導する上で学校が取り組むべき目標とその内容を示しています。各学校では、この「指導の目標」を基に教育課程を編成し、その実践を通して、【人間性豊かな子ども】を育ててください。

1 子どもの学びを豊かにします

「子どもの学びを豊かにする」とは、子どもが学びの過程において、学び方を身に付け、自分の良さや成長を自覚し、学ぶことの大切さを実感できる学び、また、仲間と共に学ぶことの意義を見出し、自分と向き合う中で新たな目標を持つことができない学びを実現することと捉えます。

子どもの学びを豊かにすることで、自己肯定感を高め、予測困難な時代を生き抜く力、夢や目標に向かって未来を切り拓いていく力を育成することを目指します。

(1) 学校の教育目標の実現に向けて、創意工夫ある教育課程を編成します

社会に開かれた教育課程の理念のもと、学校や地域の実態を把握し、子どもの発達段階や特性を考慮して、「生きる力」を育む創意工夫ある教育課程を編成します。また、学校評価等を活用し、教育課程の改善につなげるマネジメント・サイクルを確立します。

(2) 確かな学力を育成するため、質の高い授業を行います

学習指導要領の内容について理解を深め、目標と指導と評価が一体となった授業を行い、子どもたちに学校教育で身に付けるべき資質・能力の育成を図ります。また、授業改善の視点として、主体的・対話的で深い学びを追求します。

(3) 学校教育の土台となる認め合い高め合う関係を築く力を育成します

学力・体力と自己肯定感は相関関係にあります。子ども自身の良さや成長を自覚できるような指導を行うことで、自己肯定感を高め、学習や運動への意欲を喚起するようにします。また、適切に自己表現する力や相手の立場に立って考える力を育てるとともに、規範意識をはじめ自律性や自主性、集団の一員として協力する態度を育てることで、子ども同士が互いに認め合い高め合う関係を築くことができるようにします。

(4) インクルーシブ教育システムの構築を推進します

共生社会の実現に向けて、一人一人の子どもの理解に努め、共に学び、共に育つことができるよう、子ども同士の相互理解を深める取組を日常的・継続的に行います。そのなかで、「基礎的環境整備」の一つとして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や施設・設備の整備を進めるとともに、「合理的配慮」として、個々の教育的ニーズに応じた指導や支援の提供を図ります。

(5) 校種間連携を推進します

中学校ブロックで目指すべき教育方針を設定し、学びの系統性・連続性を重視した小中一貫教育を推進するとともに、幼保小連携や高校への接続を踏まえた教育活動を行います。市立高校においては、義務教育の学びを活かしつつ、教育活動の充実を図ります。

2 子どもの健やかな体を育成します

「子どもの健やかな体を育成する」とは、生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康を保持増進することや、体力を育成することと捉えます。

体力は人間の活動の源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっています。子どもの発達段階に応じて、健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、学校における食育を充実させることを目指します。

(1) 健康・体力向上の取組を推進します

体力や運動能力、運動習慣等に関する実態を把握し、その結果を活用して、一人一人の健康の保持増進と体力の向上を図ります。

(2) 学校の教育活動全体を通じて行われる「体育・健康に関する指導」を推進します

健やかな体の育成に向け、体育・保健体育科の授業改善や体育的行事の充実など、学校の教育活動全体を通じて組織的・計画的に行われるよう推進します。

また、多様化・深刻化する健康課題に対応するため、子どもたちが適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することができるよう、体育・保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科等においても、それぞれの特質に応じて体系的な指導の充実を図ります。

資料1

(3) 学校における食育の充実を図ります

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができよう、小学校に配置されている栄養教諭を中核とした学校、家庭、地域、連携・協働による食育の充実を図ります。

また、中学校完全給食の実施に向けて、小・中学校9年間を見通した食に関する指導の充実を図ります。

(4) 望ましい生活習慣の確立に向けた支援を充実させます

望ましい生活習慣の確立を図るため、家庭と連携した継続的な指導と支援を行い、子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる活動を推進します。また、望ましい運動習慣の確立を図るため、健康・体力づくりへの意識を高めます。

(5) 運動やスポーツに親しむ機会の充実を図ります

生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力や豊かな人間性、社会性を醸成するため、学校における体育活動を通じて、運動やスポーツに親しむ機会の充実を図ります。

3 学校の組織力や教職員の力を高めます

学校の教育目標の実現に向けて、学校は人材育成の充実に努め、チームとして組織力を発揮し、よりよい教育活動を展開するようになります。校長は、マネジメントを行い、リーダーシップを発揮し、教職員は組織の一員として、それぞれの役割を遂行することが重要です。特に教員は、授業における指導力の向上を図るために研究や研修に努め、協働し互いに学び合う姿勢を大切にします。さらに、教員一人一人が、カリキュラム・マネジメントに関わることを求められます。

また、学校全体で、やりがいをもち子どもと豊かに関わることができるよう、業務改善を行うとともに、多様な教育課題に適切に対応するため、学校の教育力が十分に生かされるような校内体制を目指します。

(1) 組織を有効に機能させ、人材を育成します

組織の一員として自分の役割を果たすことに努め、より良い教育活動の展開を図るため、グループ制や学年会、教科会等を有効に機能させ、校内の人材育成が促進する体制を整えます。

(2) 校内研究・研修の充実を図ります

協働して校内研究を深め、同僚性を高めながら研究成果を日常の教育活動の改善につなげます。また、教職員一人一人が経験年数や職務に応じた自己課題を把握し、研修機会を活用して資質・能力の向上に努めるとともに、マネジメント能力の育成を図ります。

(3) 学校事故や様々な学校の課題へ組織的かつ適切に対応します

学校管理下における怪我や個人情報に関わるような学校事故、いじめ等の様々な学校の課題に対し、校内体制を整え、その未然防止に努めるとともに、事案が起きた時には、速やかにかつ適切に対応します。

4 学校・家庭・地域の連携を深めます

子どもが、基本的な生活習慣、運動習慣、学習や読書の習慣を身に付けるため、また、子どもが地域への理解を深め、地域を愛する気持ちをもちためには、家庭や地域との連携が必要です。

学校は家庭や地域に積極的に働きかけ、連携を深めるとともに、社会に開かれた教育課程を実現するため、学校教育への理解を促します。

(1) 家庭・地域との信頼関係や協力体制を構築します

教育活動に対する家庭や地域の意見を的確に把握するとともに、学校の教育活動に関する情報を家庭や地域と共有することを通して、学校と家庭、地域との信頼関係を深め、協働しながら子どもを育成します。

(2) 地域の教育資源や学習環境を一層活用します

子どもが実感を伴って学び、生活に生かす力を身に付けることができるよう、地域の人材や素材、専門的機能をもつ諸機関を効果的に活用し、教育活動の充実を図ります。

5 教育環境を整備し、充実させます

学校の教育環境は、子どもの「生きる力」の育成に、大きく影響する要素です。

子どもが、心豊かに、安全で安心な学校生活を送ることができるよう、教育環境を整備し、充実させることを目指します。

(1) 安全・安心な環境づくりに努めます

危機管理意識を高め、家庭や地域、関係諸機関の協力を得ながら、防犯を含む安全・安心に配慮した教育環境を整備します。学校環境を踏まえた防災計画や防災訓練、防災管理・組織的活動の充実を図ります。

(2) 効果的な学習環境づくりに努めます

教育の質が向上するよう、教室や学校図書館等の特別教室の環境を整えとともに、ICTを含む教材・教具の工夫とその効果的な活用を推進します。

(2) 指導の重点

「指導の目標」を踏まえ、本市の課題について、学校と教育委員会が重点的に取り組むべきことを「指導の重点」として次のように設定しました。

重点 1 学力を向上させます

【現状】

本市の子どもの学力の面では、全国学力・学習状況調査や横須賀市学習状況調査の結果から、同じ母集団における経年変化は学年が進むにしたがって全国平均に近づく傾向にあり、学習状況について改善してきています。一方で、質問紙調査においては子どもたちの学習に対する目的意識に課題があることも明らかになってきました。

【課題】

本市の特徴として、小学校低学年において全国平均との差が大きいことが明らかになっています。なお、小・中学校に共通して、発達段階に応じた学習の定着に課題が見られます。また、平均正答率の度数分布を分析すると、学力の定着に課題のある子どもたちの割合が小・中学校ともに多く、本市においても学力の二極化が起っています。

重点 2 認め合い高め合う関係を築く力を育てます

【現状】

全国学力・学習状況調査や横須賀市学習状況調査の質問紙調査では、規範意識が高いことや自分の気持ちを相手に伝えようとしている子どもが多いことがわかりました。一方で、横須賀市立小中学校の児童生徒の問題行動等調査において、いじめの認知件数や不登校の児童生徒数は依然として多い状況です。

【課題】

自分の思いを伝えようとするものの「相手の思いや立場を理解すること」等のコミュニケーションに課題のある児童生徒が増加傾向にあります。また、自己肯定感に関わる設問においても、肯定的な回答の割合が、全国平均を下回っており、課題と捉えています。特に、児童生徒が安心して登校できるよう、個々の児童生徒に真摯に向き合い、誰もが居心地良く、安全・安心に過ごせる学校づくりに努めていく必要があります。

重点 3 健康の保持増進と体力の向上を図ります

【現状】

平成 27 年度から本市独自で実施している体力等調査の結果では、本市の子どもの体力・運動能力だけでなく、運動習慣や生活習慣に関する様々な課題が明らかになってきました。

【課題】

以前から「積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化」が全国的な課題として指摘されてきましたが、本市においてもその傾向が顕著です。また、体力との関連が指摘されている「運動やスポーツ、体育の授業に対する肯定的な捉え（好き・大切・楽しい）」について、学年が上がるにつれてその割合が低下する傾向が見られます。さらに、朝食の摂取状況や 1 日の睡眠時間など、基本的な生活習慣についても課題があると言えます。

子どもの「生きる力」の育成

重点 1 学力を向上させます

○課題を明確にした学力向上の取組

○教員の指導力向上

○子どもたちの新しい時代を生き抜く資質・能力の育成

- ・学習状況の分析を踏まえ、教育課程の編成の工夫や組織的な取組の実施
- ・校内研究・研修の充実
- ・子どもたちの実態に基づき、目標と指導と評価が一体となった（PDCA サイクルが確立された）授業実践

重点 2 認め合い高め合う関係を築く力を育てます

○自分や他者を大切にする心の育成

○児童生徒相互のよりよい人間関係を築く力の育成

○合意形成や意思決定の力の育成

- ・学校教育活動全般を通じて行う道徳教育の充実
- ・帰属意識が醸成されるような学級経営の充実
- ・目的を明確にした「話し合い活動」の充実

重点 3 健康の保持増進と体力の向上を図ります

○健康・体力の課題解決に向けての組織的・計画的な取組の推進

○運動やスポーツ、体育授業に対する肯定的な捉えの涵養

○健康的な生活習慣の形成

- ・調査等を基にした健康・体力に関する課題解決に向けての R-PDCA サイクルの確立
- ・体育・保健体育科の授業改善
- ・学校が主体となった家庭との連携・協働

※各重点 1～3 の順位性はありません。

3 つの重点の達成に向けて、共通して大切にしたいのが、より質の高い授業づくりであると考えられます。各学校では、指導の重点に対して、具体的な取組内容を設定し、学校教育活動全体を通じて、組織的・計画的に取り組んでください。

学力・体力・生活意識調査の専門的分析から、お互いを認め合える学級集団であることや自分自身のよさを認める自己肯定感が、子どもたちの学力および体力の向上に影響していることがわかりました。他者への理解を深め、認め合い高め合う関係を築く力を育てることによって学力・体力の向上はもとより、人間性豊かな子どもの育成につながると捉えています。